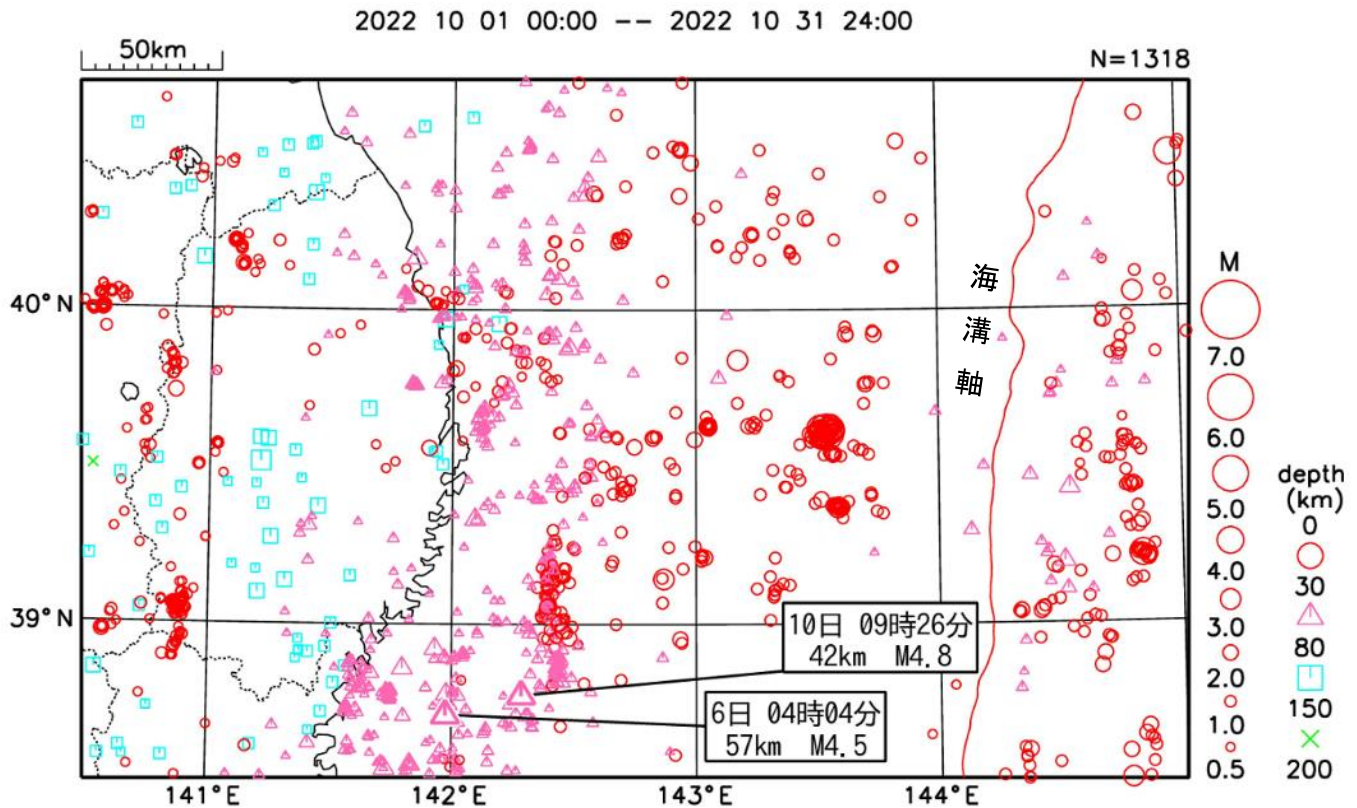


岩手県月間地震概況

2022（令和4）年10月

盛岡地方気象台

震央分布図



※吹き出しをつけた地震は概況でふれたものである。

【概況】

今期間、図の範囲内で観測した地震は1318回（先月1354回）、岩手県内で震度1以上を観測した地震は19回（先月12回）であった。

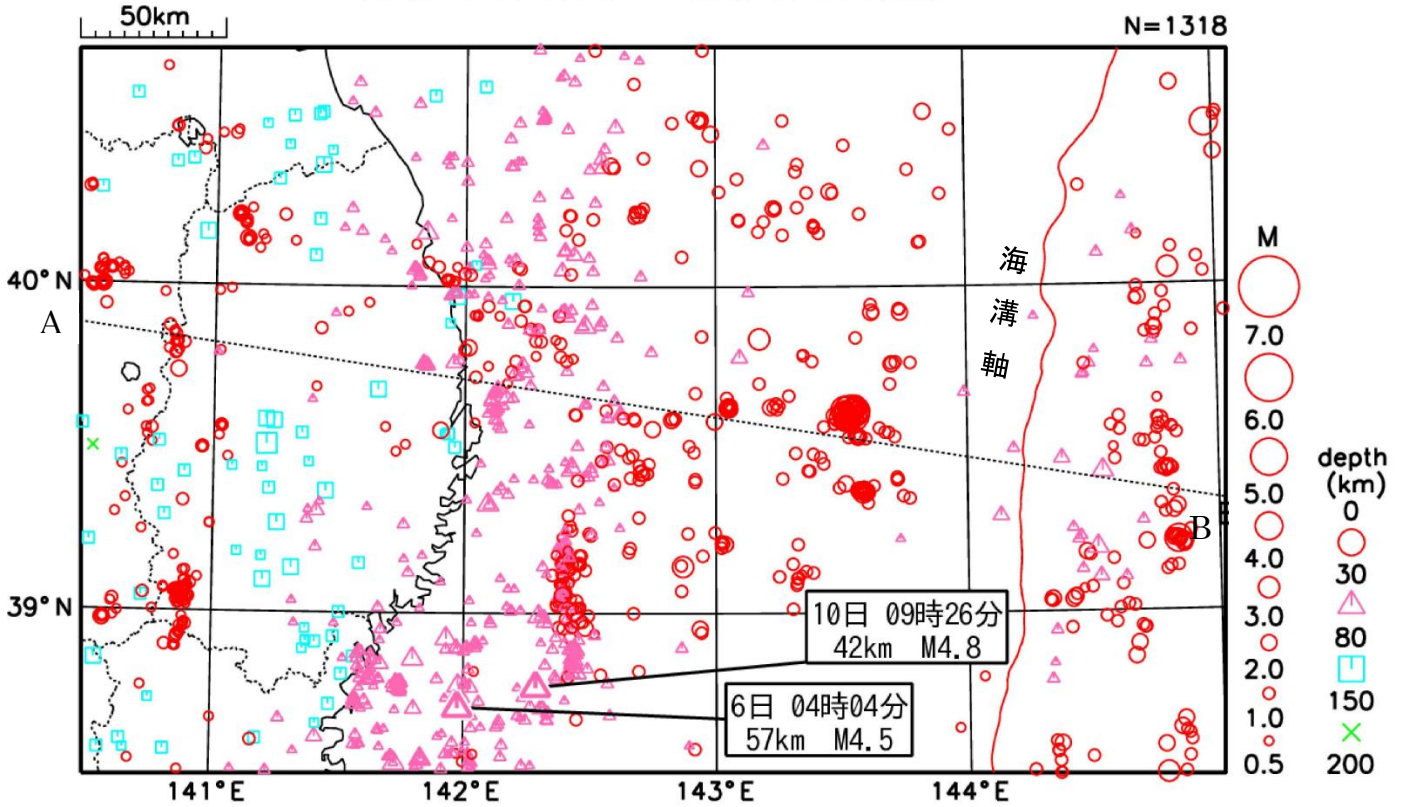
6日04時04分に宮城県沖の深さ57kmでM4.5の地震が発生し、岩手県、宮城県で最大震度3を観測したほか、東北地方で震度2～1を観測した。県内では、北上市と一関市で震度3を観測したほか、広い範囲で震度2～1を観測した。この地震は、太平洋プレート内部で発生した。

10日09時26分に宮城県沖の深さ42kmでM4.8の地震が発生し、岩手県で最大震度3を観測したほか、岩手県、宮城県、福島県、茨城県で震度2～1を観測した。県内では、一関市で震度3を観測したほか、南部を中心に震度2～1を観測した。この地震は、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

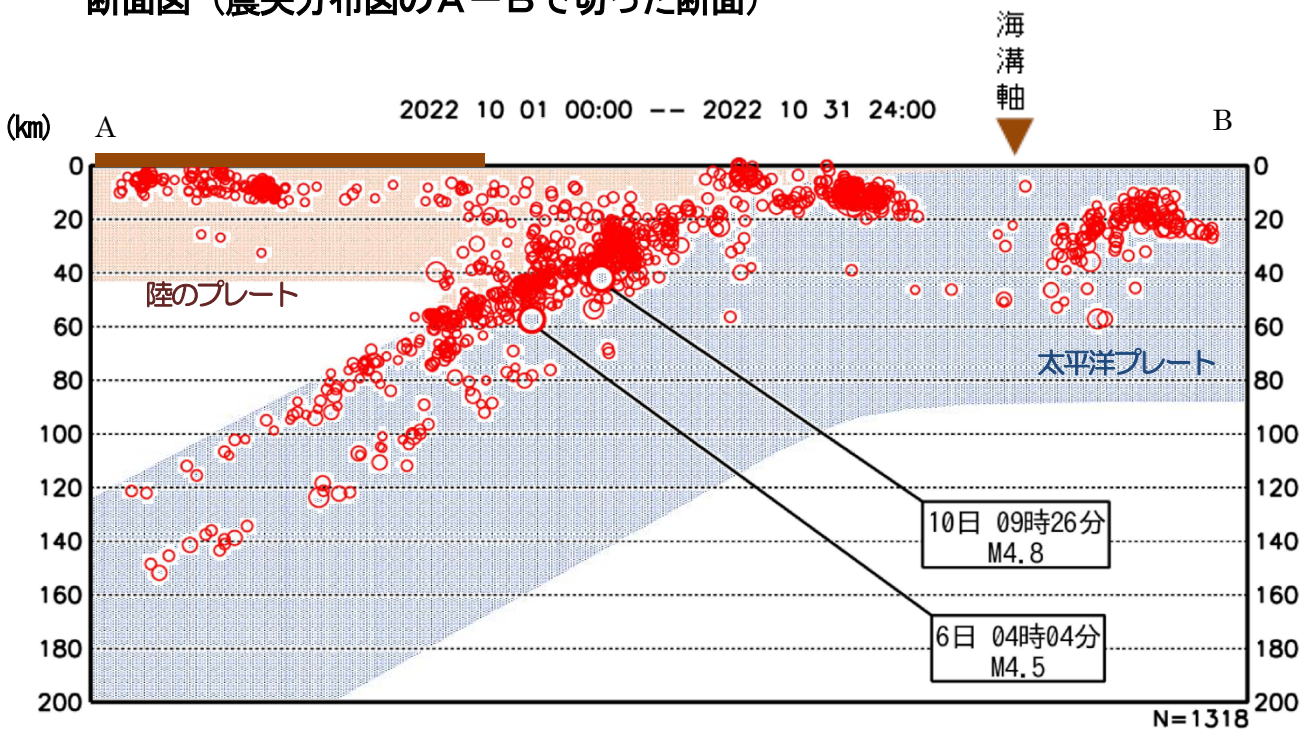
【注】各地の震度の詳細については、「岩手県で震度1以上を観測した地震」の表を参照。なお、使用した震源要素等は再調査により変更することがある。

震央分布図

2022 10 01 00:00 -- 2022 10 31 24:00



断面図 (震央分布図のA-Bで切った断面)



※陸地から遠く離れた海域 (概ね陸地から 200 km 以遠) ほど震源の深さ精度は良くない。断面図で見られる沖合の地震の震源は、実際にはより浅いところ (深さ 10~30km) のものが多いと考えられる。

※ は陸地の大きな位置を示している。

※太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大きなものである。

岩手県で震度 1 以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2022年10月1日～2022年10月31日

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2022年10月02日05時43分	宮城県沖	38° 42.3' N	141° 48.1' E	53km	M2.8
岩手県	震度 1 : 一関市室根町*				
2022年10月03日07時45分	宮城県沖	38° 33.1' N	141° 49.9' E	52km	M3.6
岩手県	震度 2 : 住田町世田米*				
	震度 1 : 大船渡市大船渡町 釜石市中妻町* 花巻市東和町* 北上市柳原町 北上市相去町* 一関市大東町 一関市花泉町* 一関市千厩町* 一関市東山町* 一関市室根町* 一関市藤沢町* 奥州市前沢* 奥州市衣川*				
2022年10月06日04時04分	宮城県沖	38° 42.5' N	141° 58.5' E	57km	M4.5
岩手県	震度 3 : 北上市相去町* 一関市千厩町* 一関市室根町*				
	震度 2 : 大船渡市大船渡町 大船渡市猪川町 陸前高田市高田町* 釜石市只越町 釜石市中妻町* 住田町世田米* 盛岡市藪川* 矢巾町南矢幅* 花巻市大迫町 花巻市石鳥谷町* 花巻市材木町* 花巻市東和町* 北上市柳原町 遠野市青笹町* 遠野市宮守町* 一関市大東町 一関市竹山町* 一関市花泉町* 一関市東山町* 一関市藤沢町* 一関市川崎町* 金ヶ崎町西根* 平泉町平泉* 奥州市水沢大鐘町 奥州市水沢佐倉河* 奥州市江刺* 奥州市前沢* 奥州市胆沢* 奥州市衣川*				
	震度 1 : 宮古市鉾ヶ崎 宮古市長沢 宮古市五月町* 宮古市川井* 宮古市区界* 宮古市田老* 山田町八幡町 山田町大沢* 大船渡市盛町* 大槌町小釜* 盛岡市山王町 盛岡市馬場町* 盛岡市洪民* 雫石町千刈田 葛巻町葛巻元木 岩手町五日市* 八幡平市大更 八幡平市田頭* 紫波町紫波中央駅前* 滝沢市鶴飼* 花巻市大迫総合支所* 西和賀町川尻* 西和賀町沢内川舟* 西和賀町沢内太田*				
2022年10月07日03時14分	福島県沖	37° 06.6' N	141° 09.0' E	26km	M4.5
岩手県	震度 1 : 一関市室根町*				
2022年10月10日09時26分	宮城県沖	38° 46.3' N	142° 17.1' E	42km	M4.8
岩手県	震度 3 : 一関市千厩町*				
	震度 2 : 大船渡市猪川町 釜石市中妻町* 住田町世田米* 一関市東山町* 一関市室根町* 一関市藤沢町* 平泉町平泉*				
	震度 1 : 宮古市鉾ヶ崎 宮古市五月町* 宮古市川井* 宮古市区界* 宮古市田老* 山田町大沢* 大船渡市大船渡町 大船渡市盛町* 陸前高田市高田町* 釜石市只越町 盛岡市藪川* 八幡平市田頭* 矢巾町南矢幅* 花巻市大迫町 花巻市石鳥谷町* 花巻市大迫総合支所* 北上市柳原町 北上市相去町* 遠野市青笹町* 遠野市宮守町* 一関市大東町 一関市竹山町* 一関市花泉町* 一関市川崎町* 金ヶ崎町西根* 奥州市江刺* 奥州市胆沢* 奥州市衣川*				
2022年10月11日20時28分	福島県沖	37° 37.8' N	141° 35.2' E	53km	M4.6
岩手県	震度 1 : 住田町世田米* 一関市千厩町* 一関市室根町* 一関市藤沢町*				
2022年10月11日23時49分	宮城県沖	38° 32.2' N	141° 43.7' E	53km	M3.6
岩手県	震度 1 : 大船渡市大船渡町 一関市室根町*				
2022年10月14日07時30分	宮城県沖	37° 53.7' N	141° 42.3' E	55km	M4.1
岩手県	震度 1 : 一関市千厩町* 一関市東山町* 一関市室根町*				
2022年10月14日08時56分	岩手県沖	39° 19.9' N	142° 05.6' E	48km	M3.2
岩手県	震度 1 : 釜石市只越町 釜石市中妻町* 住田町世田米* 一関市室根町*				

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2022年10月14日15時05分	宮城県沖	38° 46.6' N	141° 58.7' E	56km	M3.9
岩手県	震度2	：大船渡市大船渡町 住田町世田米* 一関市千厩町* 一関市東山町* 一関市室根町* 一関市藤沢町*			
	震度1	：宮古市鉾ヶ崎 宮古市区界* 山田町八幡町 山田町大沢* 大船渡市猪川町 大船渡市盛町* 陸前高田市高田町* 釜石市只越町 釜石市中妻町* 盛岡市藪川* 花巻市大迫町 花巻市石鳥谷町* 北上市柳原町 北上市相去町* 遠野市青笹町* 一関市大東町 一関市竹山町* 一関市花泉町* 一関市川崎町* 金ヶ崎町西根* 平泉町平泉* 奥州市江刺* 奥州市前沢* 奥州市胆沢* 奥州市衣川*			
2022年10月18日08時48分	宮城県沖	37° 56.0' N	141° 43.0' E	57km	M4.0
岩手県	震度1	：住田町世田米* 一関市千厩町* 一関市東山町* 一関市室根町* 一関市藤沢町*			
2022年10月18日09時46分	青森県東方沖	41° 10.1' N	142° 51.5' E	22km	M4.1
岩手県	震度1	：八幡平市田頭* 軽米町軽米*			
2022年10月19日14時54分	三陸沖	39° 36.6' N	143° 32.2' E	12km	M5.3
岩手県	震度2	：盛岡市藪川*			
	震度1	：宮古市五月町* 宮古市田老* 山田町大沢* 普代村銅屋* 釜石市中妻町* 盛岡市山王町 八幡平市田頭* 矢巾町南矢幅* 花巻市大迫町 花巻市石鳥谷町*			
2022年10月21日15時19分	福島県沖	37° 23.9' N	141° 18.3' E	29km	M5.0
岩手県	震度1	：釜石市中妻町* 住田町世田米* 一関市花泉町* 一関市千厩町* 一関市東山町* 一関市室根町* 一関市藤沢町*			
2022年10月23日22時01分	青森県東方沖	40° 59.1' N	141° 59.6' E	59km	M4.1
岩手県	震度2	：久慈市枝成沢 軽米町軽米*			
	震度1	：岩手洋野町種市 岩手洋野町大野* 二戸市浄法寺町* 八幡平市田頭* 九戸村伊保内*			
2022年10月27日05時36分	宮城県沖	38° 27.3' N	142° 00.2' E	43km	M3.8
岩手県	震度1	：大船渡市大船渡町 住田町世田米* 一関市千厩町* 一関市室根町*			
2022年10月28日18時24分	宮城県沖	38° 55.3' N	141° 55.8' E	51km	M3.7
岩手県	震度2	：一関市室根町*			
	震度1	：大船渡市大船渡町 大船渡市猪川町 陸前高田市高田町* 釜石市中妻町* 一関市大東町 一関市千厩町* 一関市藤沢町*			
2022年10月28日18時48分	宮城県沖	38° 51.5' N	141° 47.9' E	56km	M3.3
岩手県	震度1	：住田町世田米* 一関市千厩町*			
2022年10月29日17時39分	宮城県沖	38° 49.1' N	142° 26.6' E	42km	M3.8
岩手県	震度1	：大船渡市大船渡町 大船渡市猪川町 住田町世田米* 一関市室根町*			

(注) 地震の震源要素等は、再調査により変更することがある。

各地の震度は岩手県のみを示し、*は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所、及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

2022年12月16日より運用開始

北海道・三陸沖後発地震注意情報

続いて発生する巨大地震の可能性！ 情報で備えを

北海道・三陸沖後発地震注意情報とは？

三陸沖や北海道の太平洋側の沖合（日本海溝・千島海溝沿い）の領域では、マグニチュード（M）7クラスの地震が発生した後に、さらに大きな地震が発生した事例が確認されています（図1）。そこで、続いて発生する地震（後発地震）が実際に発生する確率は低いものの、巨大地震が発生した際の甚大な被害を少しでも軽減するため、この領域でM7以上の地震が発生した場合に、北海道・三陸沖後発地震注意情報を発信して、**大きな地震の発生への備えを呼びかけます。**

（※先に発生した地震を「先発地震」、それに続いて発生する地震を「後発地震」と呼びます。）

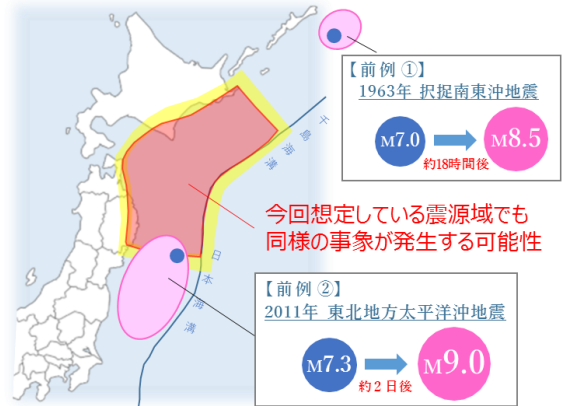


図1 情報の対象領域（赤枠内）と過去の後発地震の事例

情報が発信されたときは何をすればよい？

この情報は、後発地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっていることをお知らせするものです。情報が発信された場合は、**1週間程度、平時よりも巨大地震の発生に注意し、地震への備えを徹底しましょう。**具体的には、家具の固定や安全な避難場所・避難経路の確認などの、日ごろからの**地震への備えの再確認**に加え、揺れを感じたり、津波警報が発表されたりした際に、**直ちに津波から避難できる態勢の準備**などを行ってください（図2参照）。

<p>【地震時に迅速な避難が必要な場合】 揺れを感じたり、津波警報等が発表されたりした場合に、直ちに津波から避難できる態勢の準備</p>	<p>【リスクの高い場所に入る可能性がある場合】 想定されるリスクからの身の安全を確保する備え</p>	<p>後発地震に注意し 誰もが実施すべき備え</p>
<p>すぐに避難できる態勢での就寝</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ すぐに逃げられる服装で就寝 ✓ 子どもや高齢者等、要配慮者と同室で就寝 ✓ 室内で最も安全かつ避難しやすい部屋の使用 <p>枕元に靴等を置いて寝る</p>	<p>揺れによる倒壊への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 先発地震で損壊した建物や崩れやすいブロック塀等に近づく際には、地震による倒壊リスクを意識して、倒壊にまきこまれないよう行動 	<p>緊急情報の取得態勢の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 携帯電話等の緊急情報を取得できる端末の音量を平時よりも上げておく ✓ ラジオや防災行政無線の受信機等を日頃生活する空間に配置 <p>いつでも聞こえるように音量を大きくする。</p>
<p>非常持出品の常時携帯</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 準備しておいた非常持出品を日中は常時携帯、就寝時は枕元に置く ✓ 身分証明書や貴重品を常時携帯 ✓ 防寒具等、積雪寒冷に備えた装備を手元に置く <p>冬季の避難で低体温症にならないため</p> <p>現金、印鑑、健康保険証（コピーでも可）、身分証明書（コピーでも可）</p>	<p>土砂災害等への注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 先発地震により、土砂崩れの危険性が高まっている場所や地震発生後の津波からの避難が困難な地域に立ち入る際は、そのようなリスクを意識して、いつでも避難できるようにする ✓ 崖崩れの恐れがある家では、崖に近い部屋での就寝を控える <p>土砂崩れが起きそうな場所</p>	<p>平時からの備えの再確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 水や食料等の備蓄の再確認 ✓ 避難場所・避難経路等の再確認 ✓ 家具の固定の再確認 <p>避難所？ 小学校？ 高台の公園？ 中学校？</p> <p>L字金具、家具転倒防止板、備蓄食品の賞味期限</p>

図2 北海道・三陸沖後発地震注意情報が発信されたときの防災対応の例（「内閣府(防災担当)・気象庁」の資料を一部改変）

北海道・三陸沖で発生が想定されている巨大地震とは？

中央防災会議では、東北地方や北海道沿岸の過去の津波堆積物を調査し、津波堆積物が見つかった地点まで津波が浸水しうるモデルを作成し、最大クラスの巨大地震の地震・津波を想定しました。日本海溝沿い（三陸・日高沖）の巨大地震では、東北地方で最大高さが**約30mの津波**と**最大震度6強の揺れ**が想定されています（図3）。

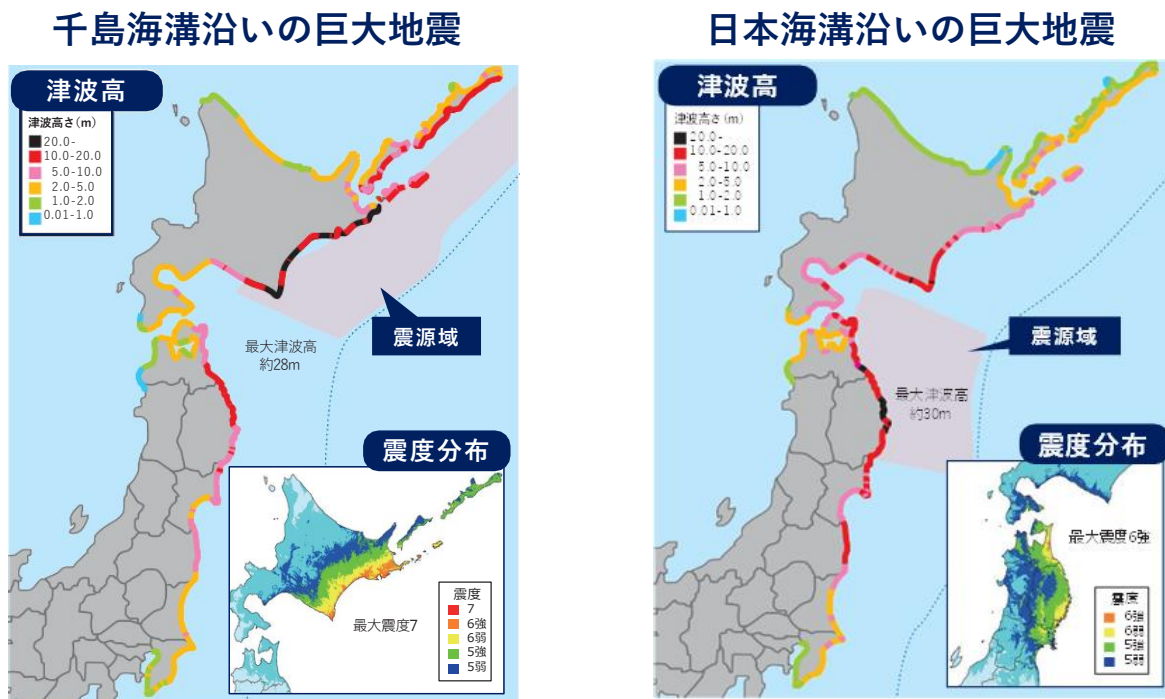


図3 千島海溝沿い（左）・日本海溝沿い（右）の巨大地震で想定される津波と震度（中央防災会議，2022 による）

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震で想定される被害は？

中央防災会議では、これらの巨大地震について、発生する季節や時間帯、事前対策の有無など様々な条件下での被害想定を行いました。その結果、最悪の条件では、死者数が約199,000人に上る結果となった一方で、**事前の備えと迅速な避難により死者が8割減る**結果も得られています。

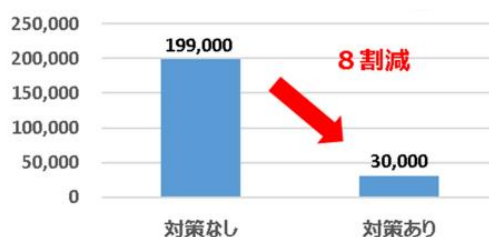


図4 日本海溝沿いの巨大地震による死者の想定（中央防災会議,2022 による）
（冬季・深夜発生の場合）

日頃からの備えが重要です

実際に後発地震が発生する確率は、世界の事例を踏まえると100回に1回程度で、極めて不確実性が高く、それに応じた防災対応は大変難しいという背景があります。しかし、ひとたび巨大地震が発生すると、その被害は甚大なものとなります。情報発信時に後発地震が起らなかった場合でも、「空振り」と捉えるのではなく、地震への備えの徹底や防災意識の向上につながる予行演習としての「素振り」と捉えましょう。

また、先発地震を伴わずに巨大地震が発生する場合も多いです。そのため、突発的に地震が発生した場合を想定し、日頃から地震への備え（事前防災対策）を徹底しましょう。その上で、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」発信時には地震への備えを再確認するようにしましょう。

（本件に関する問い合わせ先：盛岡地方気象台 ☎019-622-7870）